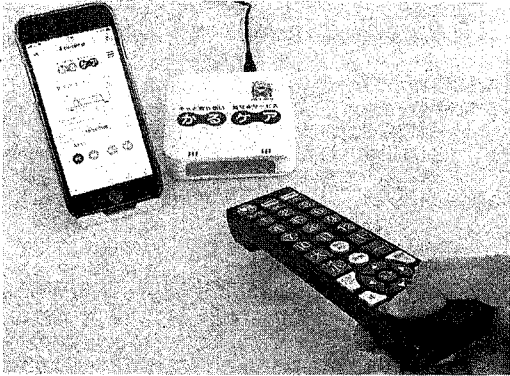


高齢者生活習慣で見守り

コンピューター総研



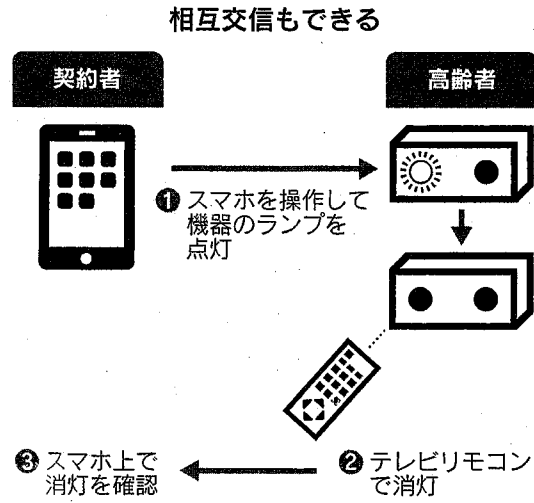
ソフトウェア開発のコンピューター総合研究所(水戸市)は、新たな高齢者見守りサービス「かるケア」を開発した。テレビや照明など自宅内の音や光を感知したデータを契約者に通知する。カメラなどを使わず簡易な仕組みで、手ごろなサービス料に設定した。離れて暮らす高齢者の生活を手軽に確認したい家族のニーズに対応する。

新たな見守りサービス「かるケア」はセンサー付きの専用機器で、室内照

「かるケア」はスマホやテレビリモコンと組み合わせて使う

リモコン使いメールも

テレビ音・照明を感知



明の点灯・消灯やテレビの音量などを感知する。テレビの視聴時間や夜間の消灯時間などのデータも蓄積。自動でグラフにしたものを契約者はスマートフォンで確認でき、高齢者の生活習慣の変化を通じて体調の変化などを察知する仕組みだ。

異常通知機能では午後6時以降の時間帯を事前に設定。テレビリモコンの操作や照明点灯、テレビの音量がいずれも感知される機能もある。専用機器は縦が10センチ、横が10センチ、高さが2・3センチと小型で、130gと軽い。テレビリモコンと専用機器、スマホがあればすぐに利用できる。

利用時は契約料3500円(税別)、保証金1万5000円(同)が必要で、月間利用料は1500円(同)。コンピューター総研は「大手業者などによる一般的な見守りサービスに比べ安価で利用できる」としている。サービスは個人、法人を問わずに利用できるが、高齢者入居施設などの需要を見込んでいる。3月から申し込みの受け付け

を始める。同社はかるケアを主力商品に育成する考えで、発売初年度は1000万円に伸ばす方針だ。同社の2019年6月期の売上高は約5億円だった。